

歴史的な産業建築をお洒落フードコートに 中尾有紀



プロフィール

東海テレビ元社員で報道番組などの制作に関わる。エンタメの最高峰アメリカのLAに渡り、テレビ番組や短編映画の制作に携わる。スペイン人の夫と結婚後、バレンシアの片田舎に移り住み、高齢出産を経て一児の母となる。ビジネス通称に翻訳、観光ガイド、テレビ番組取材のコーディネートをしつつ、余暇はワインとパデルやゴルフにはまる。夫のブランドcambrassのネット販売も手伝う。



海辺近くのメルカデル・カバニャル



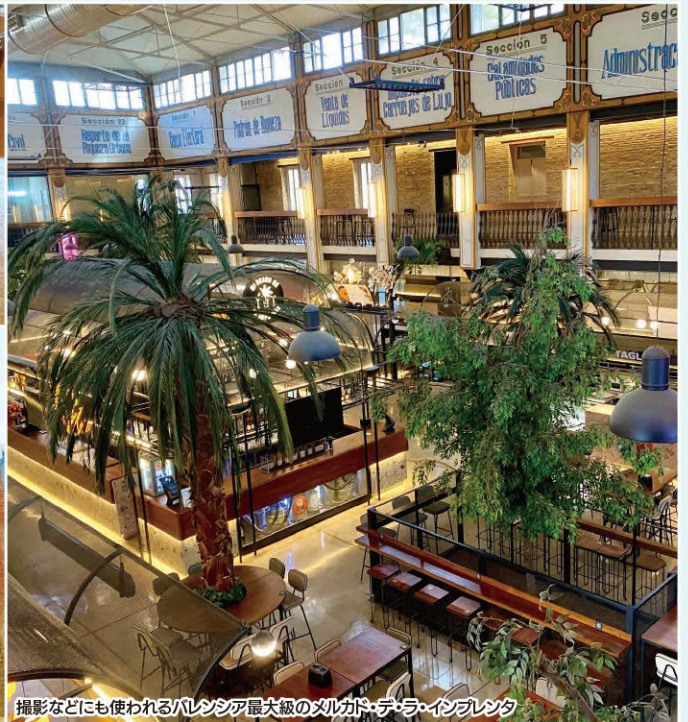
白ワインをベースに香草やスパイスを配合した「ベルモット」とオリーブ・アンチョビ・青唐辛子の酢漬け「ヒルダ」



中庭



住宅街に潜むメルカド・デ・ラ・インプレント



撮影などにも使われるバレンシア最大級のメルカド・デ・ラ・インプレント



4つのタンクが印象的、新鮮なビール「エル・アギラ」が味わえる



木樽工場で実際に使っていた小道具で壁装飾



もともとオフィスだった場所

食欲の秋を迎える今回は、メルカド・ガストロノミコ (Mercado gastronómico) と呼ばれる、複数の飲食店が集う、いわゆるお洒落なフードコートをご紹介します。

2009年マドリッドにサンミゲル市場がリニューアルオープンしたのが走りだったかと思えます。コロナ市場をはじめバレンシアでも幾つかある中、20世紀初頭の貴重な産業建築で、これまで一般公開されなかった空間を誰もが楽しめるホスピタリティとレジャーの場として蘇らせた象徴的な2カ所をご紹介します。

20世紀の建築は、鉄骨造の発展やRC造の発明、ガラスや鉄などの材料の大量生産が始まった19世紀の成果を礎に展開。世紀初頭は、資本主義の発展に伴い、様式や装飾に拘ることから脱却し、機能性や快適性を重視した空間づくりを目指したそう。

バレンシアで最大級のグルメ市場に生まれ変わったメルカド・デ・ラ・インプレント (Mercado de la Imprenta) は、もともとビラの印刷会社で、建築の巨匠ピセンテ・セルダによって1908年に完成。その規模と建築美にもかかわらず、住宅に埋もれ、バレンシア人にほとんど知られていなかったそう。1800㎡を超える敷地のビル1階には、ボカディージョ (スペイン版バケットサンド) やタパス、ピザなどの屋台が数店舗、2階は貸切イベントスペースとなっています。比較的いつも空い

ており、一杯飲みながらゆっくりお喋りが楽しめます。長距離高速鉄道が発着するホアキン・ソロヤ駅の近くで、旅の前後に立ち寄り小腹を満たすのもおすすめ。また、陶芸、ヨガ、寿司づくりなどが体験できるワークショップやワイン・チーズなどのテイスティングといった様々なイベントも定期的に開催されています。

続いて、海辺に近いカバニャル地区の入口に誕生したメルカデル・カバニャル (Mercaderes Cabanyal)。もとは1930年代に建てられた木樽工場でした。約900㎡の敷地は3つの空間で構成され、地元の旬の食材に拘った屋台エリア、世界の特選肉を提供するレストラン、そしてかつて事務所だった所にワインと食料品を扱う小さな食料品店があります。敷地には8店舗が集い、タパス、ハンバーガー、熟成肉などを提供。中二階には4つのタンクが設置され、注いだばかりの美味しいビールが味わえます。美しい石畳の中庭と庭園で繋がれた空間は、昔ながらの市場の賑やかな雰囲気を再現し、朝から晩まで海辺の一角に活気をもたらします。

使われた機器や小道具なども随所にテーブルや壁の装飾として利用されており、当時の産業建築のエッセンスが残るメルカド・ガストロノミコは、食を通じて街の産業と景観の一部だった歴史的建造部の価値を周知しています。